

# 建築

## 余話

3

### 服部 力

服部都市建築設計事務所 会長  
(1級建築士、工学博士)

「建築の設計は住宅に始まり、住宅に終わる」。学生時代

の設計担当教授や設計実務の先輩から、こうした発言を

何度も聴いた。大学で専門課程に入り、最初の設計課題は

「都市近郊に建つ標準家庭のモダン住宅」であった。木造

2階建て、延べ床面積120平方

メートル、敷地面積150平方

メートル、家族は夫婦と子供2人。

所要室は主寝室8帖押し入

れ付き、子供室6帖2部屋、

予備室6帖床の間押し入れ付

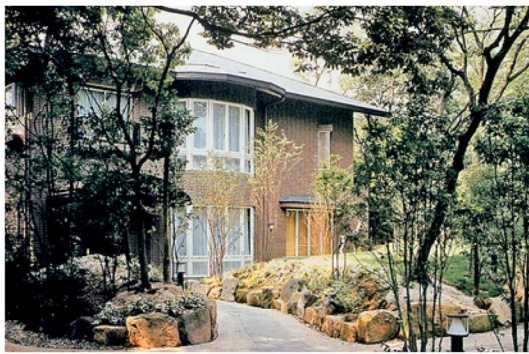
き1室(客室兼祭事用)および

納戸(扇風機・座布団・ひな

壇等の収納)で、居間・食

堂・台所連結室(LDK)う

んぬんと、50年以上前の設計



## 「住宅に始まり住宅に終わる」設計のプロを目指す

から神武景気旋風が都市から地方にも広がっていた。炊飯器・オーブン・ミキサーなどの家電製品は年々に増え続け、バイクや小型乗用車の所有台数もつなぎ上りという状況。温水器やシャワー付きユニットバス、水洗便所の温水洗浄便座付きなどの住居の普及も始まっていた。

住宅を取り巻く生活用品や家電の普及は、国民の生活の様態を著しく変化させ、社会現象にもなっていた。建築主個人の所得によって各住戸の生活内容も異なり、外観はより個性的なものが求められるようになった。建築主の要望に応えるため、新しい住設機器展示会やモデルルームが各地に設けられ、設計者はそこへ足繁く通われないと客の要望に応えられない時代にな

森の中の家・M邸(愛知県)

っていた。好奇心旺盛な私は、各種専門誌の閲覧はもちろんのこゝと、住設展や建材展に足を運び最新情報をむさぼるように学習した。それが功を奏し、建築主の要望に即応できた。ただ、よほど住宅に関心があり、新しいものや美しいものに共鳴しやすい性格でないこと、「住宅設計は難しい」とも感じていた。

数年後、新しもの好きが講じて住宅設計にのめり込み、各種コンペに参加し、幾つかの賞を獲得した。私が手掛けた住宅が建築雑誌にモダン住宅として掲載されたことを契機に、知人や親戚宅の設計依頼件数が毎年3〜5件舞い込むようになり、住宅設計の腕を磨くことができた。その経験が後に数億円クラスの大邸宅の受注対応へと繋がったのではないかと思う。